

水源禅師法話集 63

(2016年9月22日 大阪合宿6日目)

2017年2月18日

一乗禅の会



目次

水源禪師法話.....	1
「念彼観音力 釈然得解脱」「念彼観音力 波浪不能没」.....	1
海潮禪.....	2
経典、聖書の中の精神性が伝わりにくい日本語.....	7
正見が見られない原因は豚ちゃん、鶏ちゃん、蛇ちゃん《3つのネガティブ習性》.....	8
ローサカ・ジャータカ.....	9
ローサカティッサの前世のお話.....	11
いつでも不幸が起きるティッサカ仏陀.....	12
不善心、正しくない見方で強烈な不幸の輪廻を繰り返す.....	13
お釈迦様の法を間違って教えられたら惨憺たるもの.....	14
正見、その後は瞑想：四念処の心心伝印しかない.....	15
質疑応答.....	17
ゴエンカ氏の受随観.....	17
体験なくして書いて市販されている「ブラフマヴィハーラ」の本.....	19
金のユリ.....	19
働き蜂としての日本人の運命、それを超える法を得るといふ宇宙の宝.....	21

水源禪師法話

「念彼観音力 釈然得解脱」 「念彼観音力 波浪不能没」

中国全土、モンゴル、それからチベット、ヒマラヤ越えて、インドを回って、スリランカ、タイ、マレーシア、カンボジア、ラオス、ベトナム、インドネシア、ずうっと回って最後に辿り着いた所が、結局パオ・セヤドーのパオで法随観(ダンマヌパッサナー)を受け取ったわけですね。

で、『念彼観音力 釈然得解脱』という。法随観を得たわけです。まあその前に私の印幻先生によってチッタヌパッサナー(心随観)、禅法でその極意を受け取り、それで心随観と法随観。これによってゴエンカ氏の極意をスリランカで受け取ったわけですね。ヴェーダナーヌパッサナー(受随観)。その時に、レディーセヤドーが現れましてね、「一体どのお坊様かな?」と思っていたら、その後に壁にある、写真で見たらレディーセヤドー様で、それで私を指導してくれた80歳のインストラクターが、先生が、「是非ゴエンカさんに会って下さい」と。まあそれでも、私としては巨大な組織だし、組織に入る気もないし、まあそれはそれでやっ行って行けばと思って。

で、その後、最後のカーヤヌパッサナー(身随観)を体得出来たのは、ナウヤナ寺院と言ってスリランカで最も崇高な修行道場で、奇跡的にそのナウヤナ道場で与えられたクティがね、素晴らしい岩の上だったのですよ。で、その岩の力のお陰で、すーっとカーヤヌパッサナーの極意を受け取って、それでサティパッターナ(satipaṭṭhāna:念処経、四念処経)。

結局、サンマディッティ(Sammādiṭṭhi Sutta: 正見経)でちょっと説明しましたね?その後で、今度はサティパッターナが出て来ます。でその四念処の前に、如何にその『正見』、サンマディッティが大切だという事をお伝えしましたがけれども、この正見を持つ以外に八正道も無く、それからまた四諦(したい:苦・集・滅・道)も観えないわけです。で、これを観た後で、今度は正式にサティパッターナに入ります。

そう言う事で何故か南米のエクアドルで観音様を彫ったわけですね。アメリカ大陸と仏教は全然関係ない。そうでしょう?お釈迦様はインドで。ところが、百年前にグランドキャニオンで、巨大な仏像の洞窟が発見されたわけ。それが近年において全部隠して。多分、中国の方だと思います。グンダリー菩薩が傍に居りました。巨大なお釈迦様の仏像が彫られて洞窟の中にありますけれど。で、でも彫り方はスリランカ風なのですね。中国風ではない。実に不思議な仏像様です。で、今はそこは14名のスナイパー、射撃隊が居って、一人も入れない様にしているようです。奇跡的に、このビデオを見せて貰いましたけれど。という風に、殆ど隠された事で、何故私が南米に行くのかな?と思ったら、結局何かこういう因縁があるわけですね。ま、観音様のお力か何か知りませんが。

ま、そういう事で、『念彼観音力 波浪不能没』という、ベトナム戦争の時に船で逃げて来て、150名くらい水も無く、何時死ぬか分からないけれど、ただ観音様を祈り続けて無事にUNの避難地に着いて。そこでカナダのトロントで、私にとっても懇意に親しく色んな話をしてくれてね。で、この方がネパールのルンビニ公園を作ったわけです。そうです。今、有名でしょ

う？ルンビニ公園。で、「何故あなたはそういう風に幸運に救われたか？」と。「一生懸命観音様を願いました」と。「そのおかげで無事に着きました」と。

海潮禅

という事もあり、それで結局、阿弥陀名号は成功する人もいるし、しない人もいるので、それでもっと強力な海潮禅の方で行けば早いのかな？という事で紹介したわけです。阿弥陀名号はAD540年にもはや金剛山一帯のお寺でやっています。一日一万名号。で、法然上人は、その後400年後の800年辺りかな？AD800辺りか、弘法大師様より遅いと思います。と言うのは、法然上人は高野山のそこで阿弥陀浄土決定して、そこから浄土行を教えましたから。その後で、親鸞聖人が1200年後に、浄土真宗。奇しくも私も親鸞聖人のお堂で修行していたわけです。

で、私と阿弥陀はどうしても関係があるわけですね。私が高野山神護寺で灌頂を受けた時にやっぱり花が阿弥陀様の所に落ちたわけですね。でやっぱりこういう因縁で観音様は阿弥陀様を乗せていますから、それでそういう事で海潮禅をご披露したのですけれども。

やり方は、海の傍で海の音を聞きながら、ジューっと水色の海を見ます。出来れば、綺麗な水色の海が良いですけれど。そして一心に観音様を唱えながら目をつぶります。ずうっと。そうして、今度、目に完全にその海洋がキラキラキラキラと浮かび上がる様になりましたら、太陽が何故か浮かんで来ます。太陽を観る事が出来ます。そして太陽には気を取られずに、海をずっと観て下さい。

法然上人の場合は、一日一万名号を唱えながらどれくらいの時間がたったか分からないけれど、まず綺麗に水が、情景が出て来たと。カシナの話を知ったら、ちょうどカシナの水の瞑想と非常に似ているなど。でまた陽が上がって来たと。法随観ではアカサと言って太陽、陽を観る行があります。それともまた良く似ているのですね。それで私がそうずうっと座っていたら、やっぱり法然上人様が見たように海中に緑の色がずうっと広がって来て、エメラルドのその巨大なクリスタルが海の中からすーっと出て来るわけです。法然上人の場合は、その水の中が緑色になって、水の中から緑の氷が出て来たという。浄土三部経に書いていましたけれど。私の場合は、海から上がって来て、でこれが結局現代語で言えば、スターゲイトになります。スターゲイトの映画見た事ありますか？そのこうスターゲイトと言ってね、こう輪っかがあってね、その所に突っ込めば、他の時空に入って他の惑星に行くわけです。

で、アメリカが何故バグダットを攻め入ったかと言ったら、このスターゲイトの設備をバグダットのミュージアムから取り上げる為に行きたいです。だからロケットで行かなくても良いわけです。その時空をその輪の中に入れば、他の空間に出てしまうという。そういう施設で、全宇宙に広がっているみたいです。まあもっと、また話がそれるから、まあ。結局これはスターゲイトと一緒に、阿弥陀の国に入って行ける事が出来ます。観る事が出来ます。で、浄土に生まれる事と、決定となります。

【参加者】

そこに入ると言う事ですか？

【水源師】

はい。飛び込んで行って、観えます。

【参加者】

クリスタルの。

【水源師】

はい。まあ、で、そしたらね、浄土に行けば、物凄く苦勞しなくても、涅槃に達する事が出来るから。でなければ、昨日もお話した様にシャーリプトラとアーナンダ様とか、もう沢山の時空を経てやっとアラハト(阿羅漢)になったでしょう？ジャータカ物語、ずうっとお話した様に。ま、それでこの海潮禅を紹介しました。

で、やり方は分かりましたね？二回目の説明。で、そういう事をしたい人はすると。で後は、サティパッターナ(念処経、四念処経)を続けている人は、その法随観、ダンマヌパッサナー、チッタヌパッサナー(心随観)、ヴェーダナーヌパッサナー(受随観)、カーヤヌパッサナー(身随観)のそのどれでも、そのままやって下さい。

で、ここで法随観を、アナパナサティ(入出息念)をやって、ニミッタ(丹光・禅相)が非常に重要なポイントがあります。禅定に例え入れなくても、このニミッタを使う事が出来ますから、ただ一時間くらい例え40分か45分くらいの力があつたら、大変な現象を観る事が出来ます。またそれが実体になります。それで、死の瞑想、教えたでしょう？それで天眼通を得ます。最終的には。で、またこのニミッタによって、宿命通に導く事が出来ます。

だからヴェーダナーヌパッサナーでやって行って、そのままやって行っても宜しいし、法随観でやる方はニミッタを是非、アナパナをドンドン続けて下さい。何れにしても全て使えますから。只管打坐でやる方は、そのまま只管打坐でずうっと続けて下さい。これもまた関連して来ますから。それぞれ、解脱の法門に入って行きますから。良いですか？

【参加者】

綺麗な水色の海をイメージするっておっしゃいましたけれども。

【水源師】

そう、実際見た方が一番。

【参加者】

そうですね。

【水源師】

見てそして目をつぶって、それをしっかり映像に入れて今度観音様を唱えて。

【参加者】

観音様の真言を唱えれば良いのですか？

【水源師】

いや、観音様。「南無観世音菩薩、南無観世音菩薩」。それで十分。

【参加者】

それは水という事に意味があるのですか？

【水源師】

やっぱり海でしたね。私の場合は、『梵音海潮音』。だからこのお経（観音経）は、本物なわけです。結局このお経で、実体が発生するから。ただ「ありがたや」で書いているわけではないです。

【参加者】

静かな海ですか？波とかない。

【水源師】

波はありました。ずっとキラキラキラキラ光るとても美しい鮮やかな薄青の潮で
岸边ではくるくると回っていました。

【参加者】

本当に自然な形の海なのですね。

【水源師】

まあ海がクルクル回っても、海岸でまあ自然な海の傍で、まずそこで体感、まず海を
しっかり体感して、後は家でも何処でも良いと思いますけれども。出来れば、海の傍で
やられたら、非常に効果があると思います。

【参加者】

緑色のエメラルドと言うのは、どういう形をしているのですか？

【水源師】

こうグーッとクリスタルみたいなのが上がって来ます。

【参加者】

塔みたいに、スターゲートみたいに丸いやつではなくて？

【水源師】

四角いエメラルドみたいな柱みたいなのがスウツとなる。

【参加者】

それも上がって来ると思わないでただ無心に観音…。

【水源師】

もちろん、自分の力で上げては駄目です（笑）。そう観えたら、結局それが浄土に入る入り口になりますから。現代語で言えば、スターゲート。

【参加者】

初歩的なのですが、今のやり方で最初はどういう風に。ただ禅の座り方で？

【水源師】

そうです、座り方は。禅の座り方でも良いし、この様な足組でも良いし、ゆっくりと座られたら。

【参加者】

で目をつぶって、そういう状況をずっと。

【水源師】

その海ね、海。海をジッと見て、そして適当な時に、目を閉じてヴィパッサナーが始まるわけです。

【参加者】

その時はまだ目をずっと開けて？

【水源師】

いやいや、もう閉じます。で、観音様のお名前を唱えながら、海の音が爽やかに聞こえて来ます。サァーッと。その中で、そしたらこう綺麗な水色の海がキラキラ光り始めるのが、第一現象。自分でそうイメージを作っては駄目です。自然に出て来ます。自然に出て来て、次に太陽が上がって来ます。自分で太陽上げたら駄目です。これはもう偽者（笑）。そしたら、その海の真ん中辺りか何処か緑色に変化して行きます。これがグリーンタラ、観音様の事。だから水色とグリーンが観音様の色。

【参加者】

最初から目を閉じたままで。

【水源師】

そうそう。現象起がおこります。起こる事を絶対期待しては駄目です。

【参加者】

はい。ただ観音様。

【水源師】

そうです。それで結構。良いですか？非常に簡単で、素晴らしい瞑想法ですから。それで練習してみてください。



経典、聖書の中の精神性が伝わりにくい日本語

この合宿では、皆さんにマッジマニカーヤ (Majjhima-nikāya : 中部) の一番重要な一つのポイント、サンマーディッティスッタ (Sammādiṭṭhi Sutta : 正見経)。結局、サンマ・サンブッダッサ (samma-sambuddhassa : 正自覚である) って言うでしょう？サンマ。そのサンマーディッティ (sammādiṭṭhi) 正しい、正覚された仏陀。正覚、正しい。その中のサンマーディッティ (sammādiṭṭhi)、ディッティ (diṭṭhi) 正しく見る。で、八正道のこの中核が「正見」、正しく見る。見る事によって、正しく考え (= 正思)、正しい行動 (= 正業)、正しく言葉が出て (= 正語)、そして人の物を盗まない、正しい生き方、「正命」、その後で (正) 精進、(正) 定、叡智 (= 正念)、パニャー (pañña)、この八つ。

最初のこれを抜かせば、幾ら精進しても、全く無意味どころか地獄に入るという事を94代目のジャータカでお釈迦様が、強烈な苦行をして挙句の果て、地獄に落ちる事が分かったのは、正しい見方ではなく修行していたという事に気が付いて、今度天界に生まれましたね。

で、素晴らしい質問で「ではどういう風に見えるのか？」と。この英文でずうっと書いているのを見たら、日本語になれば、全て一つの言葉に集約されてしまうわけです。結局、hate、dislike、abhor loathe、これ四段階で全然違う意味を持つものだけれど、日本語の辞書調べたら、全て同じ意味になってしまうわけです。段階があります。つまりここで言語問題が発生してしまいます。つまりインドヨーロッパ語とウラルアルタイ語の日本の元素が違うわけです。また中国語も独特で違います。その発生 of 言葉の過程あるようです。

それで、日本にきた経典とか考え方とか哲学的な思想が、どこまで西洋の精神がここに入って正しく伝わっているかという事は、非常に疑問がありますね。特に精神的な問題は非常に大きな問題があります。聖書の言語で、訳せる言葉と訳せない言葉が沢山あるわけです。日本にはその生活用語が沢山存在していない聖書の言葉の中で。ところが、生活用語が非常に重要な意味を持つ訳です。その「葡萄畑」と。日本は今では葡萄畑があるけれど、ただの葡萄でしょう？あつちは、過去数千年、万年の歴史を持つ葡萄という文化の中で出来ているグレコ・ローマン文明なわけなのですよ。

トロントでギリシャの人と討論するのが一番楽しくてね、哲学の国の人だから洞察が深い、言葉一つ一つ。またスペインの人と話すのも、また楽しいのですね。だから深く愛の事を語り合うわけです。歴史的な体験から来る深い愛という事ですね。またイタリアの人と話すともまた楽しい。こうグレートローマンエンパイア (Great Roman Empire: 大ローマ帝国) の一万年の歴史の中の秘法とか、色々な物語とか物の見方。日本では当然聞けない事を、実際の体験した生活の人から聞けますからね。それもプラス宗教的なバックグラウンドで。またトルコの人との対談もまた楽しい。トルコはウラルアルタイ語系なのですよ。でトルコの最初の発生 of 地は、今のシンジャン (新疆) というトルファン。だからトルコの人が、自分の本当の国に帰ると言うのは、イー

スタン・トルファン・ステイツ (Eastern Turpan States) と言って、中国のシンジャンになるわけです。また、そこも大ロマンの音楽を奏でて素晴らしい所です。

で、そこを通過して、お釈迦様の経典が殆ど中国を經由して、朝鮮半島から日本に渡って来ているわけです。で南伝の方は、結局南伝の文化でスリランカ、そしてミャンマーにはアラハンが二人、キングアショカ王より遣わされ、バガンエリアとそれからモーリヤミンの所に居られたようです。それにお釈迦様が二回もミャンマーに来ているわけですね。ビルマ。でビルマにはやっぱり四つの仏陀の遺品 (舍利) があるわけです。アーティファクト (Artifact) と言います。カクサンダ仏陀、コーナマガ、カシャパ、ゴータマ仏陀。だからシュワダゴン (Shuwedagon) のスリパーダは何時でも天界に守られています。ただあるわけではないのです。

正見が見られない原因は豚ちゃん、鶏ちゃん、蛇ちゃん《3つのネガティブ習性》

それで、昨日色々な言葉で説明してもピンと来ないから、やっぱり一番良い説明の仕方は、やっぱりチベットは凄いですね。やっぱり正見が見られない原因は、豚ちゃん、鶏ちゃん、蛇ちゃん、この三つの習性のネガティブ習性で見えないと。そしたら、まあ感覚的に理解できます。大体それでも絵だから明確には見えないでしょう？じゃあ、もっと明確に見る方法はどうしたら良いかと。アッタ (atta: 自我)、アナッター (anattā: 無我) のアタ、自我。この自我をではどうして見たら良いのかと。これがなかなか見えない。

これを見る方法は、虚空蔵菩薩の虚空の虚空我から観たら、良く見えます。虚空の虚空我。その時空から観たら、自我が何と馬鹿な事をしているか、明快に分かります。でもこの虚空蔵菩薩の行法を未だに誰も教えていないでしょう？でも弘法大師様はこれで成功して、日本に密教を持って来たわけですね。何故受け取る事が出来なかったかと言えば、弘法大師様のお言葉では、「日本には甚だニミッタを観る人少なし」と。その密教の中核は、法随観です。密教は、ニミッタ無くしてはとても難しいことになると思います。

達磨大師の達磨禅経を見たら、やっぱりニミッタが非常に重要なポイントで、それで六祖大師が困り果てて、これは外して空を観る手法を教えたわけですね。だから空我から自我を観たら、何をやっているか直ぐに分かる。

で今この日本で、空に達する行法を教える禅寺はなかなか見つからないと思うし、文献ではあるけれど、見たらやっぱり分からないで書いていますね。でこういう状態なのは、結局この行法と言うのは、全て因縁で出来て来るわけです。因縁が熟せば、弘法大師様が生まれるわけです。因縁が熟さない大地では、そういう行法を持った方は現れない様になっているみたいです。

ローサカ・ジャータカ

それで、もっとお釈迦様の体験から話せば、ジャータカ物語の何ページだったかな…？お釈迦様の41番目の前から500、数えて41番目の前世の時にローサカ・ジャータカ (Losaka-Jātaka) という話になります。これは祇園精舎でお釈迦様がお話された阿羅漢ローサカティッサというとても頭の固い男の話と言う事でお話されていますけれど。このエルダーティッサ (Elder Tissa)、アラハン (阿羅漢) のティッサは、非常に貧乏な家に生まれて、そしてこの人が生まれてくる前の重要な話があるわけです。

その時のお釈迦様の時代に、ローサカティッサがある村の家で生まれる前に、あんまり良い事が起こらなかったわけです。それで、その村のこのローサカティッサが、お母さんの腹に入る時に、ちょうどその村は千軒の漁師の村だったわけ。実に不思議な事に、千人の漁師が漁に出て、で網張ったけれど、不思議な事にその日はたった一匹の魚しか獲れなかったわけ。その前に、この家族がこの村に住む様になって、と言うのは、あっちに行きこっちに行き、いつもあちこちから追い出されて、住んでいた家族だけでも、その家族が来てから7回も火事その村に発生して、その後7回も結局王様からいじめられる。村を荒らされる様になる事件が発生したわけです。

それで「どうもこれはおかしい」と。「一体誰がこの村の中で、この村に不幸を持って来る人がいるのか」と。そして「じゃあこうしてみよう」と。「半分五百家族、五百家族の様子を見てみましょう」と。じゃあ分けた一つの五百の家族で不幸が発生するわけです。で「こっちは五百はOK」と言う事で。じゃあまた、その半分、半分、半分。と割って行ったら、このローサカティッサがお腹に入ったこの家族である事が分かった。

で皆から叩き出されて、家族一同もう苦難の旅であっちに行き、こっちに行き。でも将来このローサカティッサはアラハンになる方なので、そのお母さんは、必死にその生命の炎を消す事が出来ない。アラハンになる人は殺されないから。で、何とか無事に生んだわけですね。苦労に苦労した挙句。でその後、何時でも不幸が起こるわけです。どんな事をしてても。

それでお母さんが、この子がやっと歩ける様になったら、この子に土器の壊れたやつね、破片みたいなこれ持たせて、「お前、その家に行って恵みを貰って来なさい」と。で、お母さんはサッともう逃げて行ったわけです。で一人ぼっちになってあっちこっち七歳まで生きたけれど、まるで泥を食べる鬼みたいな、体も洗わないそういう中でティッサは七歳になるまで何とか生き残って、と言うのはアラハトになる資格があるからそう簡単には死なないわけ。

それで、シャーリプトラ (舎利弗) 様がね、街を歩いて、ずうっと歩いてピンダパータ (pindapāta : 托鉢) している時に、この子ティッサを見たわけ。そして優しい言葉で「お前、私のお寺に来る気があるか？」と。「もちろんあります。でも誰も私みたいな者を入れてくれないでしょう？」と。それでシャーリプトラ様が綺麗に体を洗って入

れて、それで色々な事を教えてあげたわけです。

でも、そのうちに二十歳頃になるまで、最初はサマネーラ（沙弥）からずうっと上がって行って比丘になって行くのだけれども、何時も仲間と喧嘩するわけです。それでとうとう彼はお寺を逃げ出して、また今度は食べるか食べないかの苦勞をする身分に落ちて。それで、物凄く貧乏な女の人と結婚するわけです。で、そして過ごしたけれども、女の人から嫌がられて、このティッサがいる限り悪い事ばかり発生するのです。で、そこを追い出されて、今度はもう生きる術も殆ど無いから、今度は船乗りとして船に雇われたわけですね。ああ、ちょっとこれはカシャパ仏陀の前世の時だ。

何れにしろ、シャーリプトラ様に拾われて、そしてまた非常に苦勞して、それで食うか食わないか、そういう生活をしながら結局人の米を洗ったその米粒あるでしょう？そのカラスがつばむみたいに一粒一粒拾って、そして食べる様な事をしていたけれども。

で、この子ティッサが結局そういう風な事をして、またシャーリプトラ様の教団に見つけて貰って入ったわけです。で、今度はそこで、今度はアラハトになったのだけれども、教団に入っている時でも何時でも食事が一番最後になる、最後と言うか食事が食べるか食べないか。やっと生きて行ける状態だった。でアラハトという最高の位を得てもいつも彼は殆ど食べるか食べないかの食事しか貰えないわけです。壺に入っても食事その壺の中からは消えてしまうわけです。

それで、シャーリプトラ様が瞑想していた時に「今日この日、エルダーティッサが死ぬ」と。「どうしても、ティッサに腹一杯食べさせて死なさなければいけない」と。これには理由があるわけです。もしアラハトが不幸にして死んで行った場合には、その国が大変な不幸に陥るわけです。二年前くらいにお話したでしょう？菩提達磨様が中国で歯を二つ折られたと。それを吐き出したら、数百万の人が干ばつで死ぬと。だから飲み込んだと。

と言う風に、弟子達に「今日、ピンダパータに行って、一杯食事を貰って持って来い」と。何故かと言ったら、その日シャーリプトラ様が結局エルダーティッサを連れて、一番人の多い町に連れて行ったわけです。でも、全然壺にも食料が入らない。それで、良い所に連れて行っても貰えないわけです。それで「よしよし、お前は道場でちょっと待ちなさい」と。で、そのシャーリプトラが比丘達に「食事を持って来い」と。ところが何とした事か、ピンダパータ受けたその食事を全部食べちゃったわけです。

という凄い因縁の話です。因縁と言うのは、凄いのです。絶対に食べさせない様になっている。それで、比丘の掟では、12時前に食べないと大変な事になる。それで、もう急いでお城に上がって行って、シャーリプトラ尊者が王様に「ピンダパータの食事を恵んで下さい」と。そしたら王様が最高の食事を入れてくれて戴いたと。で持って帰って来たわけです、でも「12時を過ぎているから、私は食べません」と。そこで。で早速、ティッサに「お前はこの壺を持つな」と。「私が持つから、ここで手を入れて食べなさい」と。で生まれて初めて思う存分、良い物を食べたわけです。

で、その日の内に死んで行ったわけ。つまりアラハトだから、舍利も出すし、凄いも

のでしょうか？死んで行く時も満足して一番美味しい王様の（食事）を食べて行ったものだから、超満足で死んで行ったわけです。もちろん、その舍利は道場に納めるわけですね。

カナダでも体験された方は分かるでしょうけれど、やっぱりお釈迦様の舍利があるもので、座ればそこはもう天国みたいに時間がスッと過ぎて実に楽しい時間になります。で、そういう舍利をずっと道場に置くものだから、瞑想が非常にしやすい。でパオでも、偉い人の舍利塔があります。私はそこでよくお参りしに行きました。

何故かと言ったら、ニミッタの光が出ているから。そこを三回回って頭を下げてそして道場に入って行く。そしたら、非常にニミッタが激しく出て来てね、でスイスイイって行ったわけです。だから理由があります。これ以外に法随観を得る方法はない。何故か私の目には見えるわけ。その法灯の舍利塔が非常に激しくニミッタを出している。宝石の様に、で、そこをクルクルクルクル回って、力を戴いたわけですね。偉い尊者様の舍利が入っています」という説明を受けたけれど。

ローサカティッサの前世のお話

それで、この話に戻って、お釈迦様がこのローサカティッサの前世の話をしたわけです。この人がカシャパ仏陀の時、ゴータマ仏陀の前の時の話だけれども。ティッサがある寺院にいた時に、その村の近くにアラハトが旅して歩いて来たわけ。比丘が。アラハトというのは、エルダー（elder）と付けます。尊敬を込めて、「長老」と言う。そしてその庄屋さんが非常に喜んで、お話を聞いてお食事を渡して非常に丁寧に奉ったわけですね。そしてこの庄屋さんが非常に気に入って、この長老に「お願いがあります」と。「この近くに寺院があるから、そこに行って今夜泊まって下さい」と。でこのアラハト長老は、「はいはい、ではそうします」と。でそこに行ったわけです。でそこで前世のティッサが、ティッサ比丘が喜んで「はいはい、どうぞ入って下さい」と案内してクティを与えて、そしたらその夕方に庄屋さんが来て、非常なもてなしで、花とか色んなものを持って来て、そこで深くダンマ（dhamma：法）を聞きながら帰って行ったわけ。

その庄屋さんが喜んで「明日は全部の比丘とこの長老アラハトと一緒に私の家に来て下さい」と。「もてなしますから」と。で、ティッサは「やあ、この人が私のお寺にずっと居られたら困る」と。「この人が全尊敬を集めて、全てこの人の所に行くから、私の立つ瀬が無い」と。「隅にやられてしまう」。そう思ったわけ。それで、このアラハトが比丘ティッサに明日の事を聞いても、口一つ開かずにジッとしているから、「うーん、どういう事か…」と思って、部屋にこもって。それで「いや、私が居ては困るのかな？」と。それで衣装も着けて全部、ピンダパータに行こうとしたけれども、お鉢だけ渡して行かなかった。その庄屋さんは「一体どうしたのですか？アラハン長老が来ないのは？」と。「いや私は知らない」と。という風に来させない様にしたわけ。

でも、その庄屋さんはその壺にね、ピンダパータの壺に、もうこれ以上美味しいもの

はないものを一杯詰めて。例えば、チーズとかね、もう最高の食べ物なわけです。甘いもち米で作ったご飯とか。そしたらこの前世のティッサ比丘は「いや、これを食べさせたら絶対にこのまま居るから、食べさせる事が出来ない」と。これを人にやったら噂が出る」と。「これを大地に投げたら、動物が集まって来て目立つ」と。でそれでこの美味しい食べ物を火の中に入れたわけ。で火屑で覆ってしまって、完全に空っぽにして、そしてアラハンの所に持って行って、「実は今日ピンダパータに行ったけれど、何も入りません」と、渡した。で、このアラハンがそのままスーッと旅に出たわけ。

こういう不善行、不善心を完全に実行してしまったわけですね。思うのではなく、実行してしまった。数日の内に彼は死んで、地獄に落ちたわけです。普通はもう私が話したでしょう？前世である比丘が、カシャパ仏陀の時に生まれて、その後一劫の間燃える火の坂で苦しんだと。でも、ローサカティッサは何か修行したか、良いダーナ（dāna:布施）したから、数十万年で地獄の底から出て来たわけ。そしてその後、五百生の間、餓鬼に生まれて。餓鬼と言うのは、口が長くて殆ど食べる事が出来ない生き物に生まれて。何時でも腹を空かせて。で、ティッサの幽霊は、一生の間に一回腐った食べ物が食べられたら、それがもう最高の事で、それが一回あるくらいで。それが五百生続いたわけ。五百回。で、その後、犬に生まれたわけ。その犬に生まれても、殆ど食べられるか、食べられないか、犬の一生の間で一回だけ一日人間が吐き出した物をたっぷり食べられる事が出来たと。それ五百回くらい続いたわけですね。

いつでも不幸が起きるティッサカ仏陀

で、最後にローサカティッサが生まれるお話しを今して、その村で生まれたら不幸な事が起こったと。で、その後、今度は非常に貧乏な家に生まれたわけです。その時、結局食べる事も出来ない、生きる事も出来ないという風なこの家族に何時でも不幸が起きるから、カシャパ仏陀の時に生まれたティッサカ仏陀がね、その後で。彼が居ると何時も家に不幸が起きるから、叩き出されたわけです。

でさっき話しがちょっとこんがらがったけれども、それで叩き出されて、結局泥でも食う様な事で這いずり回って、そしてお釈迦様に引き取られたのかな？お釈迦様に引き取られて、そこでやって喧嘩して出て行って、一番貧乏な女性と結婚して、そしてその船乗りになって出てったけれども、船が出て行って大海に出て行ったら、船が七日間動かないわけ。で、七回岩の上のし上がったと。それで「これはどうもおかしい」と。それでサイコロ投げたわけ。船乗りが全部。「一体誰がこの不幸を起こすか」。そしたら、ローサカティッサだったわけ。それでバンブー（竹）の船に乗せて、「お前はもうこの船に乗る事が出来ない」と。彼を出した途端、船がすうっと出て行ったわけ。

で、話はね、ある天女の住んでいる島についたけれども、その天女の所で良い思いするのに、7日したらまた彼は出て行ってと。ずうっと話は続くわけ。今度は、14人の天女がいる所に行って、とか。で、また7日居たら出て行ってと。で、最後は人食い島の所

にたどり着いたわけ。そしてその人食い島の鬼は、山羊に変身して、本当は化け物だけれども、人食い山羊と言うか。それで彼は、ティッサカはその山羊の足を掴んだわけ。そして掴んだ瞬間にこの化け物はブーンと空中に放り込んだら、その時限から今度は結局お釈迦様が菩薩の時にね、寺院で教えていたその街に落ちたわけです。お城の近くに。そこにはまた沢山の山羊が居たから、同じ様にまた足を掴んだ時に、泥棒と思われて、袋叩きにあって、それで王様の所に連れて行かれる所を…、この名前はその時こう言っていました。話が長いから、よく覚える事が出来なくてすみませんけれど…、「ミッタビンダカ」。ミッタビンダカという名前だったわけ、その時。ですぐゴータマ菩薩が「一体お前どこに行って居った？」と。「寺院から逃げて喧嘩して」。それ見て王様の所に行って「盗んだから」と言う事で、捕まえた人に「このミッタビンダカを、私の奴隷にするから譲ってくれないか」と。それで「良し良し」と。それで彼の所でずうっと修行したわけですね。そう、名前はミッタビンダカ。ま、そう言う事で、そこでずうっとポティッサッタの下で、修行してまた死んで行ったわけです。で、生まれた所が、さっき話した様に漁師の街の非常に貧乏なお母さんのお腹の中に入って、最後にはアラハトになったと。

不善心、正しくない見方で強烈な不幸の輪廻を繰り返す

私の言わんとしている事は、この話とアクサラ（akusala:不善）の事。クサラ（kusala:善）では無く、不善心。正しくない見方。と言う事によって、アラハトになる資格でも、その前世でこういう強烈な不幸な輪廻を繰り返す。ただ救われたのは、お釈迦様の、カシャパ仏陀の時に、修行、拾われたというその因縁で良くまたシャーリプトラ様に拾われてアラハトになった。だから、良い因縁がいつも良い良い良いとなれば良いけれど、その正しくものを見なかった、その「アラハトの食べ物を与えなかった」というこの一回の業で、これだけの不幸が起こるわけです。

だからシャーリプトラが、今度は神通で今日このローサカティッサが死ぬと。アラハトが。もし食べさせないで死んだら、大変な事になるわけです。大変な不幸を持ってアラハトになった方で、もう国が絶滅するかも分からない。死ぬ時、腹一杯食べさせないでそのまま腹を空かして死んで行ったら。菩提達磨がたった歯二つ折って、数百万人が干ばつで死ぬと。この比較にならないわけです。それで、無事食べさせて、そして茶毘に伏して。でお釈迦様がこういう話をしたわけ。

問題は、現世において、正しいものの見方が出来ない。そして、巨大な帝国が、無実の人を沢山殺している。特に、精神的に高い人達を殺した場合は、大変な不幸が起こると思います。コンキスタドール（conquistador:スペインの征服者）が、サウスアメリカに来た時に、殆どのハイプリースト（high priest:高僧）は殺されたわけです。例えそれが仏教ではなく、他の宗教の聖者であっても、そういう尊い仕事をした方が殺されたら、やっぱり国の運命としては良い事がないわけですね。

またこの地球の運命としても、この第一次世界大戦、第二次世界大戦、ありとあらゆる主義主張が出て。罪の無い人達が沢山殺されたわけです。チリでも、ピノチェトが九千人の若者を飛行機から落として殺しているといわれています。その中には、善行で非常に気高い若者が居たとすれば、国としては大変だし。だからお釈迦様は「無駄に人を殺してはいけない」と。

ところが今全世界で戦争を止めないでしょう？それもイラクに結局多量殺人兵器があるという事で攻め入ったけれども、無くてそれは嘘だったと。でその後、数百万の人が殺されて、未だに国が滅茶苦茶になって。今度はこの怨念によって、アメリカ・ヨーロッパがリビアを攻めて、本当は罪が無いわけですが、全然。どうしても悪い事をさせる因縁を作ってしまうのだから。アフガニスタン、罪の無い人が沢山死んだはず。だからアメリカ兵がアフガニスタンに行って帰って来たら、殆ど精神異常になって帰って来てしまう。その後、イラクでしょう？その後、リビアでしょう？もう兵隊がいない、アメリカで。戦う人が居ない。だからもう機械兵士を作り始めている。ドローンとか。もう留まる所を知らないわけです。

アラハトにたった一回の食事を与えなくても、これだけ彼は苦労します。国が他の国に対して罪の無い事をしたこの因果関係は想像を絶する事が発生します。かと言って、(時計の)針を戻す事は出来ない。もうやってしまったから、この因果は。では何か出来るか、やっぱり善良な方に如何に法を伝えて、この正しい見方で生きれば、あなた方は大丈夫。

お釈迦様の法を間違って教えられたら惨憺たるもの

でも、法を間違っ

て教えられた人は、また惨憺たるものなのです。また、世界的に正しい見方が出来ないから、正しい見方でない修行をさせたり話をしているから。因果関係でそうになってしまう。正しい事が伝わらない様になって。で、全て一緒に撃沈という運命になってしまう。

ただし、私が今ここに居て、仏国日本の素晴らしい善良な人達を助けたいと。何故かと言ったら、この国は過去二千年、もしくはそれいじょうの年月に沢山良い事をして来たわけです。でもたったこの近年において、このインカ帝国を滅ぼして、そしてまたアメリカ大陸では、六千万人のインディアンが居ったけれど、今はたった三十万。そしてそのインディアンを徹底的に虐殺したわけですね。そしたら、そこに無人の土地があるからです。でその不幸を一生懸命外国に輸出しているわけです。出来るだけ、自分の因果を低くしようと。だから、正しい物の見方を出来なければ、たった一人でもこれだけですから。

結局昨日もお話したでしょう？蚊を退治しに行く時に、皆弓矢でやって行っ

殺そう」と。蚊（笑）。蚊を刀で（笑）。こういう事は今に始まった事ではないと。前もこの村では、大工さんが蚊にピカピカの頭を刺されて、息子に「この蚊をやっつけてくれ」と。「はい」と。研ぎ澄ましたマサカリでパチーッと蚊を、蚊だけ打つってそういう達人でないのに、パチッと頭を割って殺してしまったと。その因果関係で、またそういう事をやってしまうわけです。

結局これをこう言いますね。「煩惱」、キレサ (kilesa)。だから私達はこのキレサが一杯あるわけです。で、国全体のキレサを取ると。これどう思いますか？世界に平和を。でも個人としては取れる可能性がある。その手法が、ヴェーダナーヌパッサナー、受随観。それも正しく教われればですよ。逆に間違っただけで教われれば、お釈迦様でも地獄に落ちると？実は良い所に行くつもりが、地獄に落ちる修行をしているかも知れませんけれど。お釈迦様の教えでない事を「お釈迦様の教えである」と、教える人も悪いけれど、それを信じて行った人もそのまま行ってしまう。という事を、お釈迦様がこのジャータカでいっぱいお話しているわけです。で、経典を読んでも、深く理解出来ないから、その恐ろしさが全然分かっていないようです。

正見、その後は瞑想：四念処の心印印しかない

さっき言った様に、「じゃあこの正しく見るには、どうしたら良いのか」と。私も自分の自我を空我で観たら、滅茶苦茶に間違っています（笑）。でも、そういう体験が出来たらそれで良いのだけれども、普通は出来ないので。それで、さっき豚ちゃん、鶏ちゃん、蛇ちゃんの事を思い出して、その悪い習性の所ね。豚ちゃんは、一杯こう食べて食欲でポーンと。犬でも凄いですよ。自分の食べ物、私でも「ウワンワン！」って言うからね。「取るなー！！」って（笑）。「ウワー！」って、こんなちっちゃい犬でも。

だから、結局原因は私達食べているでしょう？食べ物。これが、結局来世に生まれる最大の渴望、食べたいという渴望。この渴望が結局、SEX と性と直結しているから。「食＝性」なのです。生きる基、生きる心。生きる心だから、食べるわけ。これを良く理解しなければ、大変な事になる。何故かと言ったら、美味しいものを食べるのは、全然問題ない。ところが、こういう事を分からないで、あのグルメ？グルメの旅とか、もう今盛んにやって、もう目も当てられない結果になりますね。何故かと言ったら、この社会が良い場合は問題ないですよ。今世界がこれくらい荒れ狂って、地球もこれくらいおかしくなっているのに、今撃沈の寸前に船の上でカンカン踊りをやっている。せめてその撃沈する船でこう観音様を拝むとか、このお経に書いている様に。せめてこう静かに瞑想して、「まあこのまま死んでも良いです」と。いう心境になれば、成功。

まあこういう事で、この後に重大なその瞑想法が来ます。お釈迦様は「ただこれだけによって涅槃にしか達しない」とこのお経の中で言われています。これだけ、サティパッターナ（念処経、四念処経）、「これ以外に方法なし」と。「八万四千の法門の中でこれだけです」と。だからこれに入る前段階がサンマーディッティ (Sammāditṭhi) 正しく

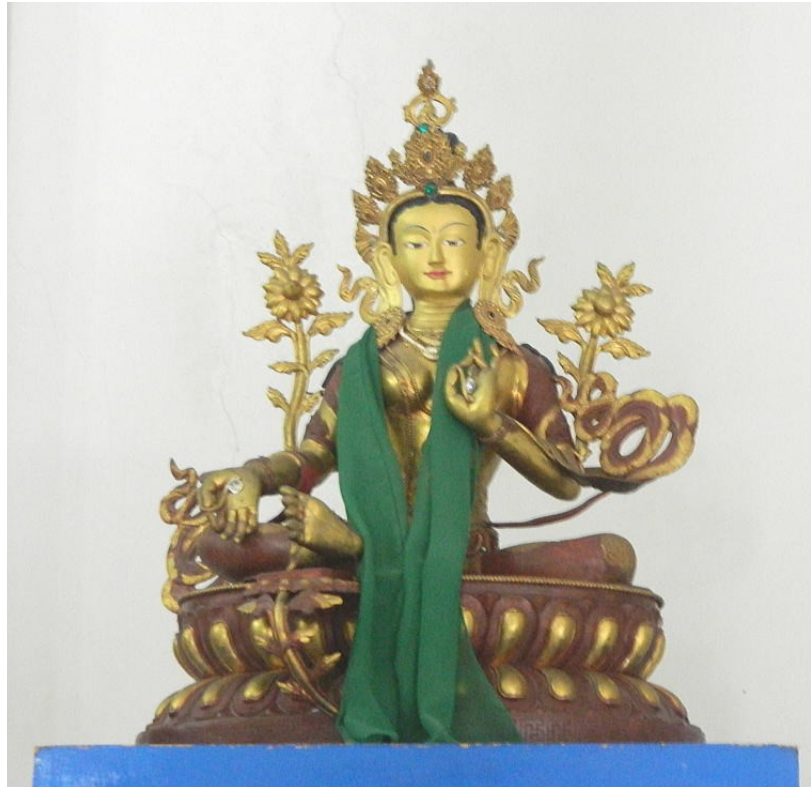
見ると。これが結局、十二因縁に関係してきますが全てダァーッと言えば、物凄く頭クラクラするから、そのポイントだけ今こうしてはなします。本を読みすぎたら、頭振れますよ。いや分かったら本読んでも良いけれど、でも体験無しで、本読んだら、やっぱり頭がいつもフラフラと心が揺れます。また、体験無い人が書いた本を読んでも、益々頭狂うことになると思います。全く真理と関係ない事を皆さんが良い様に、分かる様に、これは全く偽者。基本の実際の体験なしに分かる、わけないのだから。

今日もアーチャンチャーの本を見せてくれたでしょう？体験無い人が書いているから、ぼけているでしょう？私が説明して「ここがぼけています」と。結局、瞑想をしていない普通の文章家が、悟りを開いたアーチャンチャーの事を書けるわけ無いわけです。でもその本が今度は、偉い人の本だからと。結局パオ・セヤドーがここに来て通訳が全然出来ていないから、さっき今説明した様に。例え彼の事を100%聞けたとしても、その言葉 言葉一つ一つが体験して初めて分かるわけです。「瞑想しなさい」という事。

ダライラマ法王も、日本に来て何回も説教しているけれども、真髓は「瞑想して下さい」と。ダライラマ法王が、ここです（目の前の位置の事）。ここです、本当に。私がトロントで招待するお手伝いしたら、本当にこの距離。実際にこの距離で対談を聞きました。それは過去の因縁によって、三回もお会い出来たのです。だからそう言う事で、この仏の教えと言うのは知れば知るほど高いのです。

だから今回、お釈迦様の言葉で、メッタのサティ (Mettānussati : 慈随念)、ブッダのサティ (Buddhānussati : 仏随念)、すぐ結果出て来るでしょう？凄い結果が出て。また観音様の直接の教えでやったら、もう相当な所までザァーッと出て来るし。それが分からない、体験無しにした人が幾らやったってそれは無理。テープレコーダから聞くのと一緒に、テープレコーダが先生になるわけがないでしょう？コンピューターが先生になるわけがないでしょう？「心心伝印」、心と心にだけしか伝わらないと言うのが正法になっていますから。だから体験者以外から伝わりません。

だから百万冊の本を読んでも無駄なわけ。実際、郷里の東北大学の仏教哲学で博士号諦めて辞めて、「これは百万冊本を読んでも理解出来ない」と。全くその通り。お寺に生まれてお寺に育って、あっさりある時点で辞めました。つまり、何処かがこの日本で行を出来ない様な仕組みになっているわけですね。出来ない様な仕組みになっているのは、因果関係か、何故か。で、また因果関係で私が日本に生まれた事によって、今こうして法を伝える事が出来ますけれど。私もまさかこういう事になるとは夢にも思わなかったです。実際に。「まあ、日本は日本で沢山素晴らしい行者も居るし」と本当に思っていたし、だから来る気も無かったし。あっちはあっちで、もう左団扇で悠然と暮らせるし。でもこう見たら「いやあ、私もここに来なければ、天罰を受けるかな？」と（笑）。



質疑応答

ゴエンカ氏の受随観

【参加者】

僕がゴエンカ氏の所で、受随観を以前やっていたのですが、お話によると（日本で教えているゴエンカさんの方法は）ちょっと違うとお聞きしたのですが、例えばそのまま修行していたらそのまま悪い所に行ってしまう…？

【水源師】

体がもう崩れて、頭が狂うでしょうね。この世で。そしたら次の世で人間界に生まれる可能性は少ないですね。

【参加者】

例えそれがもし自分なりに「ちょっと効果があるな」と思っていたとしても、その土台が間違っていてしまえば、良くないものなのではないでしょうか？

【水源師】

良い事ないですね。だからジャータカ物語とか真剣に読めば、如何にして正しい法を教えている所に行くかと。ところが今は宣伝の世の中だから、民主主義で「皆、良い良い良い」と。それは皆そこに行くでしょう？でもウクライナどうなりました？民主主義で「良い良い良い」と、今でも国で市民戦争で殺し合いやっているでしょう？リビアもデモクラシーで「皆、良い良い良い」と道で踊りましたが（前は一人大体年間六百万、学校はただ。医療費も無料。）今は何もなし。電気もつかない。水道もない、あるのは結局暴力団とか山賊で荒らされて、何時死ぬか分からない状況。まだこの日本はそれに比べれば、ずうっと良い方向で天国みたいに見えるという事ですね。

【参加者】

そうした場合は、他のゴエンカ氏の所の情報が入ってしまっているのですけれど、そうした場合は先生と教わり直した方が…。

【水源師】

もちろんそうです。聞いたら、もう間違っています。ゴエンカさんの言った事が全然伝わっていない。

【参加者】

ゴエンカ氏が間違っているわけでは…。

【水源師】

では無い。それを伝える、日本語で伝えている人達が、ゴエンカさんの事を伝えていません。やり方も何も。またこの受随観はやっぱり本当に法を体験した人が教えるべきであって、そうではない人が間違っって教えられて、正式な方法が伝わっていませんよ。ゴエンカさんが言った事と全く違う事でやっているから。その彼の意思も伝わっていないはず。ゴエンカさんが「やめてくれ」と言っている事を一杯やっていると思う、今。死ぬ前に「これだけはやらないでくれ」と。「私が死んでもこれだけは」。ところが見たら、まさに彼がお願いした逆をやっているみたい。お祭り騒ぎ。

彼が一番大切にしたのは、お釈迦様のお経を読む事。勝利のビクトリー (victory) の経典。ジャヤ何とかと言ったね (Jaya Mangara Sutta: 吉祥経)。そこにはお釈迦様の言葉で非常に力強い、力を受ける事が出来ます。だから、そのお経を読まない限り進化出来ないのです。法を聞かない限り。で、そのお経が何を意味しているかと言う事は、やっぱり瞑想を体験した人が読めば全然違います。法を体験した人ね。

体験なくして書いて市販されている「ブラフマヴィハーラ」の本

そのサティパッタナの一つでも、そこを無くして、頭だけでやれば、オウム真理教になります。その経典を見たら、もう絶対に分からない事の連続。と言うのは、一番大切な法随観のブラフマビハーラ (brahmavihāra: 慈・悲・喜・捨の四梵天住) が中心になっているのだけれども、全然分かっていないで書いています。必ずや頭が狂う様になっている。つまり体験無しに、この本を書いている。読んでみたら、頭だけで書いていました。だからその本を読んだら頭ガンガンして痛くなって、もう直ぐ投げ出したくまりました。

全然お釈迦様の方向とは関係が無い、独自に編み出した。またチベットの方法とも全然関係が無い。これは日本チベット教ですね。この本尊のニンマ派の寺に行きました。この本と全然違います。またそのお坊さん達とも会って、非常に大切に書いて貰いましたが、この本当のバイブレーションとは全然違う。

だから本当に幕張の中で全く分からない所で幾ら正しいと思っても、本当のニンマ派の教えとは全く違う手法で日本用に改良されているのかも。それも内容全然駄目、合わない、合わない。全く合わない様になっている。これでやったら大変な事になる、頭が狂ってしまいます。

問題はね、何故日本で誰一人これを指摘しないかという事が非常に不思議。知っていて言わないのか。と言う事は大変な事になりますよ、この経典の様に。知らないから放って置くのかと。人々が信じてそれを食べた時には、またこれは大変な事になります。ローサカティッサが一回だけの間違いでこれだけの事が起こる。

ま、そういう事です。ですから現状はこうですから、あなた方が法を受け取れば、もう大安心で、もはや法を受け取った方が数名出ていますから。それぞれの瞑想法で。私は本当に安心です。一人でもこの国で法を持てば、また法がこの法によって大変化が起きて来ますから。だから皆さんが頑張ってくれて、私も非常に嬉しいです。特に、今回は宿命通、天眼通を観た方が居られますので、これは大変な事です。また慈悲の瞑想で究極の観音様を観た方も居るし。また受随観も完成された方も数名居られますし。だからこの力は凄いですよ、皆さん。今回このサンガは。凄い力を持っていますよ、もう年々上がって行きます。

金のユリ

【参加者】

先程もインタビューの時にご相談したのですが、去年の東京の法話会で、日本人が16時間働かなければ…という理由があって、そのヒントが「金のユリ」だと。金のユリと言うのは、天皇の金塊という事で良いのでしょうか？

【水源師】

金のユリ、ゴールデンリリー (Golden lily) 。これはマルコス前大統領と日本軍とも関係して来ます。その時フィリピンに、確か10万トンの金塊を埋めたそうです。それで山下将軍のその下で働いた人が口を割ったわけです。それでその在り処が分かって、つまり過去五千年、金によってしか経済は動かないわけです。アメリカは結局1930年代に破綻したでしょう？大金融恐慌で。それで、国民全てから金を取り上げて、それでもまだ足りないわけです。現在もアフガニスタンゴールド、イラクゴールド、リビアゴールド、戦争に行つて金を探しに行きます。

で、今アメリカが何をしているかと言つたら、金を買いあさっているわけです、必死です。ドルが金で保証になっているからです。その時にこの日本軍の持っていた約10万トンの金で、それでこの世界金融体制が出来たわけ。日本は金があるから、外国から皆ツケで兵器を買つてやっていたけれど、結局カラ手形になったら、それこそ全部無くなるから、それで必死になって働いて返さなければいけないでしょう？

ま、そういう事で、この金はアメリカが全部取つて行きました (笑) 。戦勝国ですから。

【参加者】

今、じゃあ金というのはアメリカに行つてしまった？

【水源師】

アメリカのどこにあるか分からないけれど、結局アメリカも債権で銀行に払わなければいけない。さっき言つた様にこの世界は、結局心と思考はバチカン。それからお金はロンドンシティ。そして軍備はワシントンD.Cシティ。その昔古代ギリシャのシティステイト (city-state:都市国家) になっているわけです。今でも。国家と言うよりは、都市が全世界を握っている。この三つの都市が連携して。で一つの集団の中に三つのこの都市が入っているわけ。それぞれ分割して。ここで使われているはず。殆どのお金はスイスに眠っているはず。金も。

というこの流れは、結局過去六千年の流れの連続なわけです。でもそういう風に見せない様に見せない様に、見せない様に私達は教育されて、そう言う事でお釈迦様の話なんて、てんで「来世も無い、前世も無い」と。そういうのは馬鹿げているという風な考えでしょう？それがもし本当であれば、今みたいな社会体制になりません。こんな恐ろしい事、誰も知らないです。これで回答になりましたか？

働き蜂としての日本人の運命、それを超える法を得るといふ宇宙の宝

【参加者】

では日本人は一日 16 時間どうしても働かなければいけない運命という事ですか？

【水源師】

債権。やっぱりね、バンカー（banker：銀行家）ナポレオン時代から、国に貸付るでしょう？国は絶対払わなければいけない。戦争を遂行するには、莫大なお金が掛かるでしょう？勝てば負けた国に払わせられるから良いけれど。負けた場合には、博打に負けたのと一緒で大変な事になる。で「ご破算に願ひまして」という事はまず有り得ない。だから、戦争ほど儲かる商売は無い。

【参加者】

ですけど、負けたドイツ人とかイタリア人、16 時間働くと言う事は無いではないですか？

【水源師】

ドイツは 16 時間から「お前は 8 時間で宜しい」と。まあイタリアも「遊んで宜しい」みたいなの。というバチカン、イングランド、ロンドン、ワシントン D.C、それに殆どウォールストリートのバンカー CEO は、イタリア系。東洋人は殆ど無し。でイタリアでは、必ず一年に一ヶ月の休暇＋お金、＋クリスマスタイムもボーナスのお金を出さなければならぬ。そのツケを何処から持って来るかと。

さっき言ったでしょう？ただで物を自由勝手に使って払わないという事は無いわけですよ。だからドイツが第一次世界大戦で負けたビスマルクが、結局戦争で負けたから払わなければいけないわけですよ。お金が無ければ、武器弾薬買えないから、すぐに降参。一旦戦争を始めたら、もう後には引けないですからね。だからシリアもどっちも後に引けない。何処と手を打つかと。つまり全ては昨日説明した様に、お金の動きを見れば全て分かりますと。ゴールド。で今、来月から中国が世界通貨金になるでしょう？SDR（special drawing rights：国際通貨基金）。そして、噂では三万トンの金を持っていると。十分世界に通貨出来ると。日本の場合はまだ賢くて、二千トンくらいはあるのではないかな？カナダは、ゼロ。全部売り払って無し（笑）。カナダはもう降参してどうでも良いと（笑）。まあその方が賢いかも（笑）。だから私みたいに楽々で、あちこちいけるみたい。一番にならなくても良いと。

まあ、だから結局ね、だからこそ仏教の法を得るといふ事は、こういうものはもう何と云うの？本当に全く問題にならないくらい小さな問題です。法を得た瞬間に「これ以上の宝が来ます」といふ法華経の火の火宅ですか？長者が「出ておいで」と。本当に

その通りです。本当にその通りだから、ジャータカ物語でも今お話したのが、この通りお話です。だからあなた個人 個人がしっかりと法を掴めば、また他の人も助けられるし、あなた自身も大変な栄光を受けます。という宇宙最高の教えです。

まあ悲観的であるのか、ポジティブであるのか、それは個人の判断で、あなたが成功すれば沢山の人を助けられるのですから。ね。全世界を助けると言う、それは素晴らしいけれど、それはちょっと難しいと思う。一杯魑魅魍魎、「私だけ良ければ良い！」というガリガリ亡者が全世界一杯居るから。



水源禪師法話集 **63**
(2016年9月22日 大阪合宿6日目)

2017年2月18日 発行

編集兼発行 一乗禅の会